

マックスプランク・東京大学 統合炎症学センター

Max Planck-The University of Tokyo Center
for Integrative Inflammology

<http://mputc.com/index.html>

設立の主旨：

炎症反応は従来の研究分野から更なる広がりを見せている研究分野であり、感染、発がん、免疫にとどまらず、代謝系、血液・循環器系など多くの研究分野を包含した研究分野として発展しつつあり、世界的に注目されている分野です。

それらの分野に実績をもつ複数のマックスプランク研究所に所属する研究者と東京大学医学系研究科、生産技術研究所を中心とした複数部局の研究者が部局横断的にお互いに連携し、その学問的相乗効果を狙った研究センターを設立しました。このセンターの推進によって、新しい疾患概念の確立や治療法の確立を目指すとともに国際交流を通じた学生や若手研究者の育成を図ります。



2013年6月25日 調印式（於：東大本部）

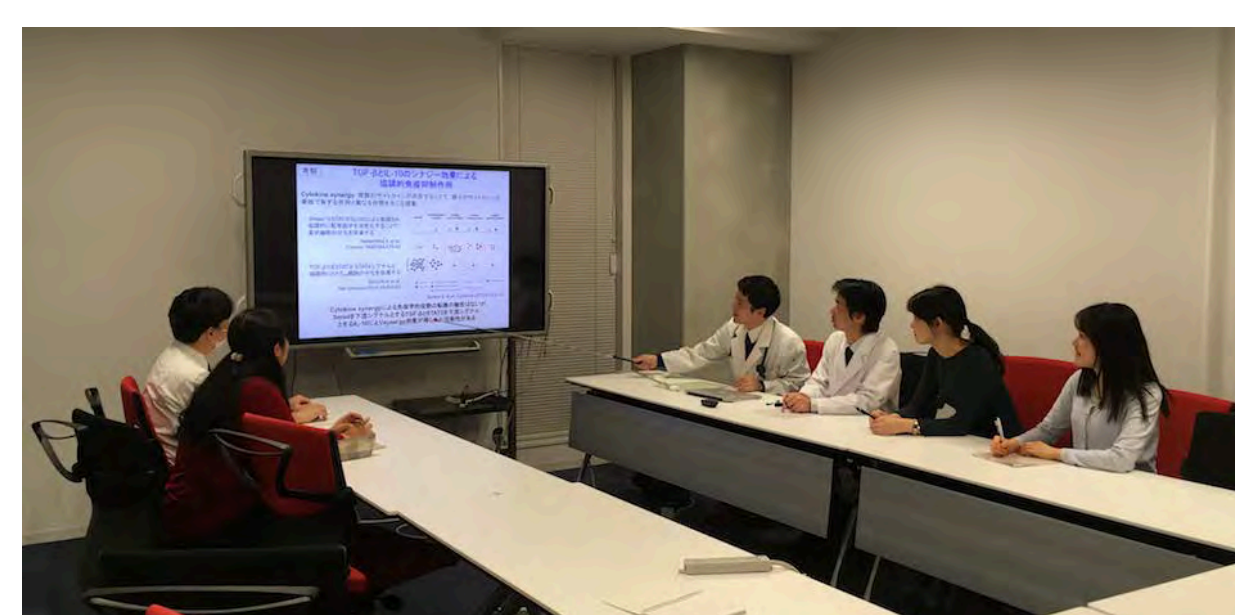
- 毎年、合同シンポジウムを開催しています（2014年度、2016年度はベルリン、2015年度、2017年度は本学で開催しました）。学生の参加も募り、国際交流に寄与しています。
- マックスプランクセンターセミナーシリーズを開催しています(21回)。国内外の著名な研究者を招聘し、一般公開をしています。HPで随時情報を公開しています。また、2014年9月6日には発がんに関するマックスプランクセンター・ミニシンポジウムを開催しました。
- センター所属名で多くの学術論文(21報)を発表しました。共著論文も発表予定です。
- ドイツ側の Co-Director であるRudolf Grosschedl教授を生産技術研究所の招聘外国人研究者としてお招きし、2015年3月23日から4月7日に渡り情報交換や共同研究の可能性などについて議論していただきました。また、講演をしていただくとともにセンターの将来構想についても意見交換を行ないました。
- 2015年3月にドイツからメルケル首相が来日された際、首相の要望で数名の日本の科学者との懇談会がもたれましたが、東大側の Co-Director である谷口維紹が招かれて出席し、首相に本センターの主旨や目標について説明致しました。
- 2016年6月にマックスプランク協会の副会長ハンセン博士が生産技術研究所を表敬訪問されました。
- 2016年8月マックスプランク研究所より米谷耕平先生（Dr.Grosschedl研究室所属）を共同研究のため招聘しました。
- 2017年より、当センターのジュニアフェローが中心となり、不定期の勉強会、ジュニアフェローミーティングを開催しています。



第三回合同シンポジウム（於：ベルリン）
～ベルリンの駐独日本大使館での
八木大使主催レセプション～

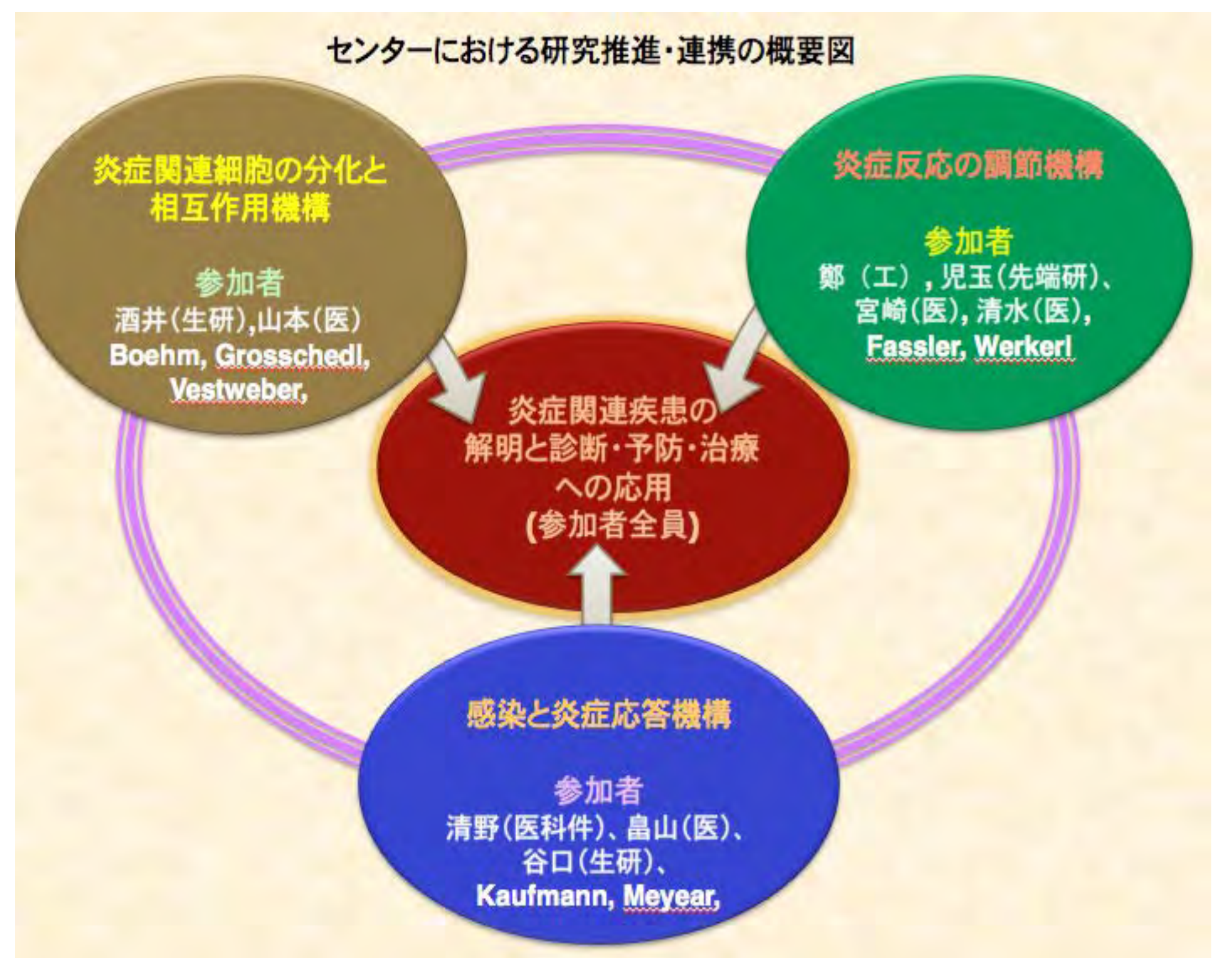


第四回合同シンポジウム（於：東京）



第四回ジュニアフェローミーティング
（於：東大 医学部附属病院）

センター概要：



（センター参加者）

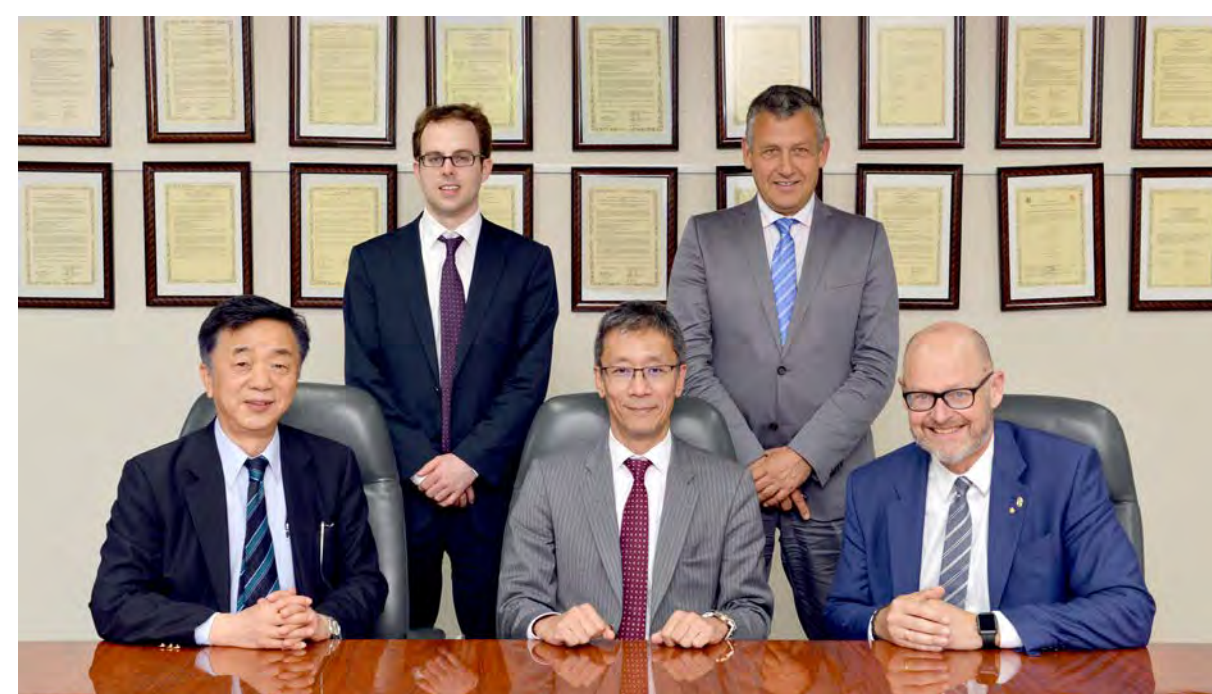
-東京大学-
生産技術研究所（2）；医学系研究科（4）
医科学研究所（1）；工学系研究科（1）
先端科学技術センター（1）
マックスプランクジュニアフェロー（5）

所長；谷口維紹（生産技術研究所）

副所長；畠山昌則（医学系研究科）

-マックスプランク協会-
Max-Planck Institute of Immunobiology and Epigenetics (2)
Max-Planck Institute of Biochemistry (1)
Max-Planck Institute for Infection Biology (2)
Max-Planck Institute for Molecular Biomedicine (1)
Max-Planck Institute of Neurobiology (1)

Director; Rudolf Grosschedl
Vice Director; Dietmar Vestweber



Visit of Prof. Dr. Bill S. Hansson, Vice-President of Max Planck Society to Institute of Industrial Science, The University of Tokyo on 9 June, 2016

2016年6月 MPS ハンセン副会長のIIS訪問



一般公開セミナーを開催（21回）